

# 消 防 統 計 資 料

(令和5年)

住宅用火災警報器 交換のおすすめ

10年たったら、  
とりカエル。



とりカエル君

Niihama City Fire Department  
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号

TEL:0897(34)0119 FAX:0897(34)1189

URL:<http://www.city.niihama.lg.jp/>



# ～住宅用火災警報器は

## 10年を目安に取り換えましょう～



住宅の寝室や階段室に設置されている住宅用火災警報器は、平成18年の法令改正で消防法及び新居浜市火災予防条例により設置が義務となり、17年以上が経過しました。電池寿命が10年の住宅用火災警報器は、電池切れの時期になりますので、電池や本体の交換が必要です。

市内においても電池切れのアラームが鳴動したり、作動確認した際に音が鳴らなかったり、故障を知らせる音声が鳴るなどの事例が発生しています。

次の方法で、交換時期の確認や、定期的な作動確認をすることで、適切な維持管理をしましょう。

### 【設置時期を調べるには】

1. 住宅用火災警報器本体に記載されている「製造年」を確認する。
2. 住宅用火災警報器を設置した際に、本体に記入した「設置年月日」を確認する。

### 【作動確認について】

1. 月に1回程度定期的に作動確認を行ってください。
2. 住宅用火災警報器についている「ボタンを押す」または「ひもを引く」

警報音が適正に鳴る⇒正常

警報音が鳴らない又は故障を知らせる⇒電池交換又は故障

※ 作動確認が出来ない場合は、取扱説明書をよく読み、電池（本体）を交換するか、メーカーに問い合わせる。

### 【交換するには】

持ち家…家電販売店、ホームセンター等で購入

(日本消防検定協会の検定品)

借家…大家若しくは管理会社に連絡し相談

# 目 次

	火 災		ページ
1.	火災概況		1
2.	火災種別		2
3.	建物用途別件数		2
4.	月別火災件数		3
5.	時間帯別火災件数		3
6.	曜日別火災件数		4
7.	覚知方法別火災件数		4
8.	校区別火災件数		5
9.	月別原因別火災件数		6
10.	死傷者の発生状況		7
11.	初期消火の状況		7
12.	10年間の火災概況(平成26年～令和5年)		8
13.	住宅用火災警報器の設置について		9
		救 急	
1.	救急活動状況		10
	(1) 地区別救急出動件数の推移		11
	(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況		11
	(3) 事故種別救急出動状況(月別)		12
2.	応急手当普及啓発活動		13
3.	救急車適正利用のお願い		13
4.	救急支援情報サービス		13
		救 助	
1.	救助概況		14
2.	救助活動状況		14
3.	救助統計		15
4.	過去5年間の救助概況		16

# 火 災



1. 火災概況
2. 火災種別
3. 建物用途別件数
4. 月別火災件数
5. 時間帯別火災件数
6. 曜日別火災件数
7. 覚知方法別火災件数
8. 校區別火災件数
9. 月別原因別火災件数
10. 死傷者の発生状況
11. 初期消火の状況
12. 10年間の火災概況(平成26年～令和5年)
13. 住宅用火災警報器の設置について

## 1. 火災概況

令和5年中の火災件数は29件で、前年と比較すると7件減少しています。これは約13日に1件の割合で火災が発生したことになります。

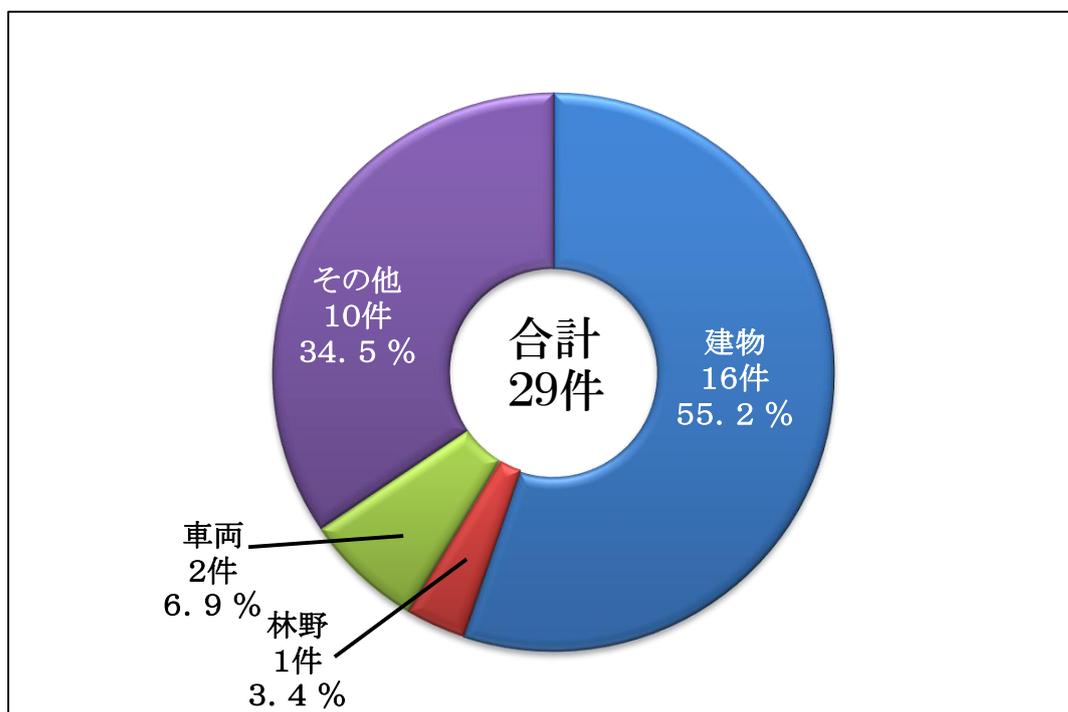
火災による死者は1人（前年2人）、負傷者は6人（前年6人）、建物焼損棟数は36棟（前年42棟）、建物焼損床面積は1128.05㎡（前年1098.94㎡）となっています。また、火災による損害額は48,447千円で、前年と比較すると18,875千円減少しています。

区 分		単 位	令和5年	令和4年	増 減
出火件数	出 火 件 数	件	29	36	▲ 7
	建 物	〃	16	22	▲ 6
	林 野	〃	1	0	1
	車 両	〃	2	5	▲ 3
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	10	9	1
損害額	合 計	千 円	48,447	67,322	▲ 18,875
	建 物	〃	44,629	66,418	▲ 21,789
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	223	904	▲ 681
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	3,595	0	3,595
焼損棟数	合 計	棟	36	42	▲ 6
	全 焼	〃	10	13	▲ 3
	半 焼	〃	1	0	1
	部 分 焼	〃	12	16	▲ 4
	ぼ や	〃	13	13	±0
焼損面積	建物焼損床面積	㎡	1128.05	1098.94	29.11
	建物焼損表面積	〃	114.28	160.56	▲ 46.28
	林野焼損面積	a	0.0	0.0	0.0
死傷者	死 者	人	1	2	▲ 1
	負 傷 者	〃	6	6	±0
	負傷者のうち30日死者	〃	0	0	0
り 災	世 帯 数	世 帯	23	30	▲ 7
	人 員	人	46	76	▲ 30
出 火 率			2.54	3.09	▲0.55

※出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。▲は、減少を示す。

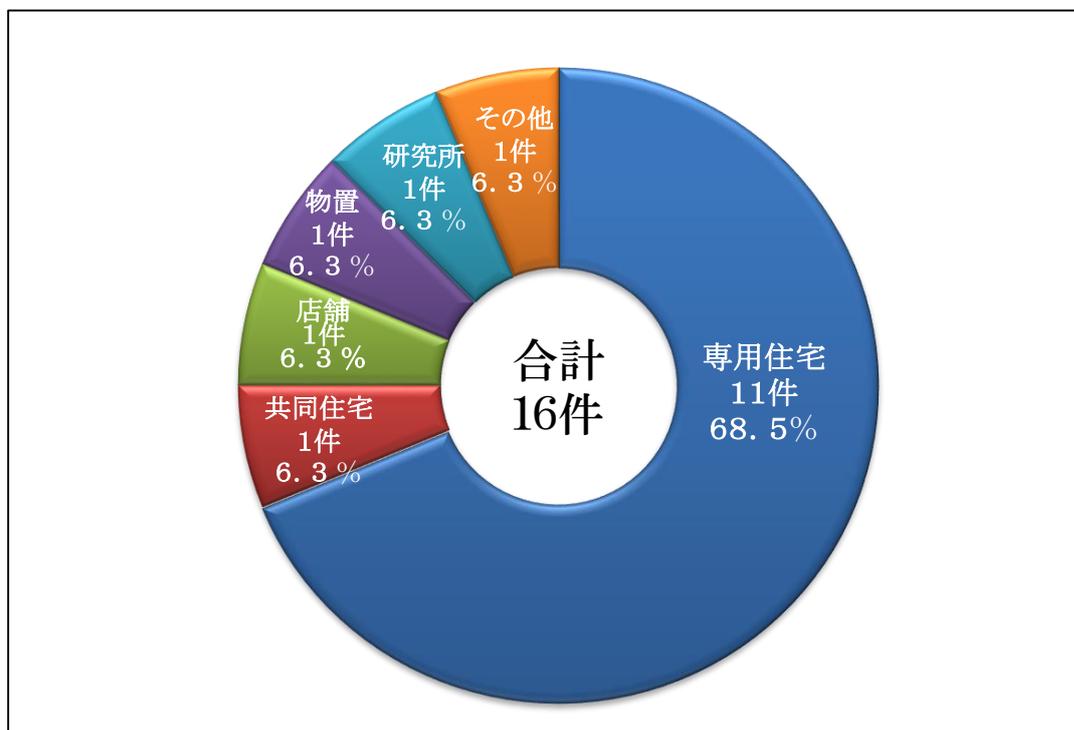
## 2. 火災種別

火災種別ごとの件数をみると、建物火災が16件（55.2%）で全火災の約5割を占めており、次いでその他の火災が10件（34.5%）、車両火災が2件（6.9%）、林野火災が1件（3.4%）となっています。



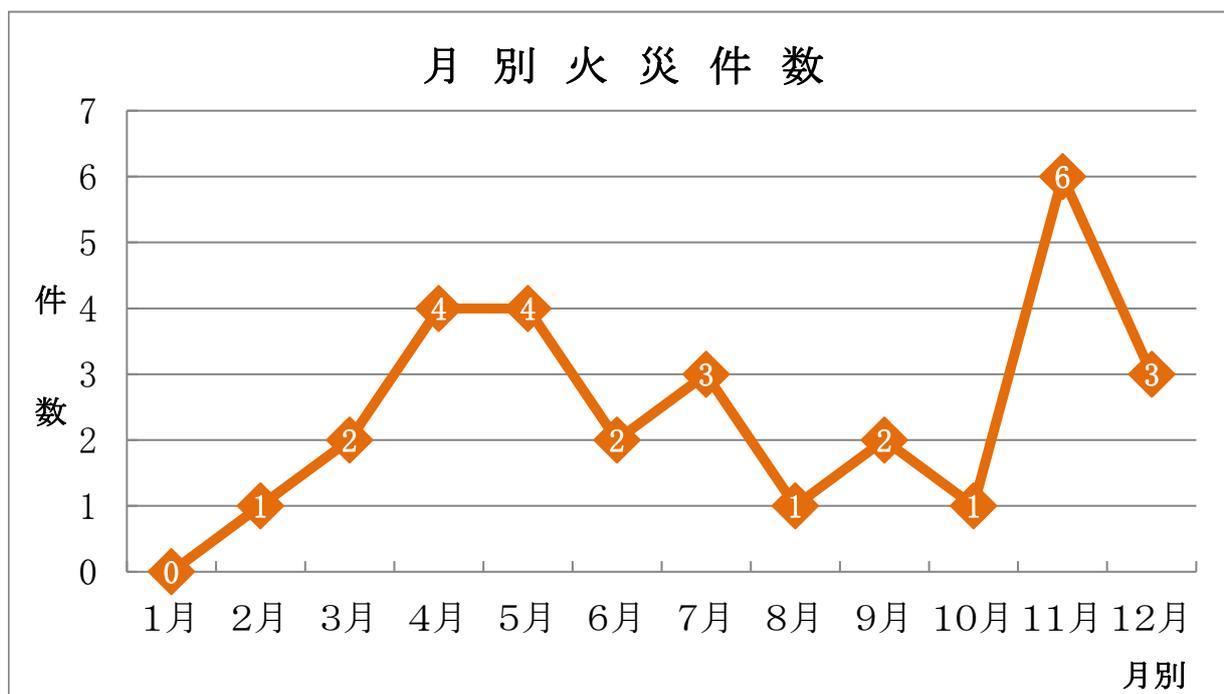
## 3. 建物用途別件数

建物火災を用途別にみると、住宅火災が12件と最も多く、建物火災の約7割を占めています。



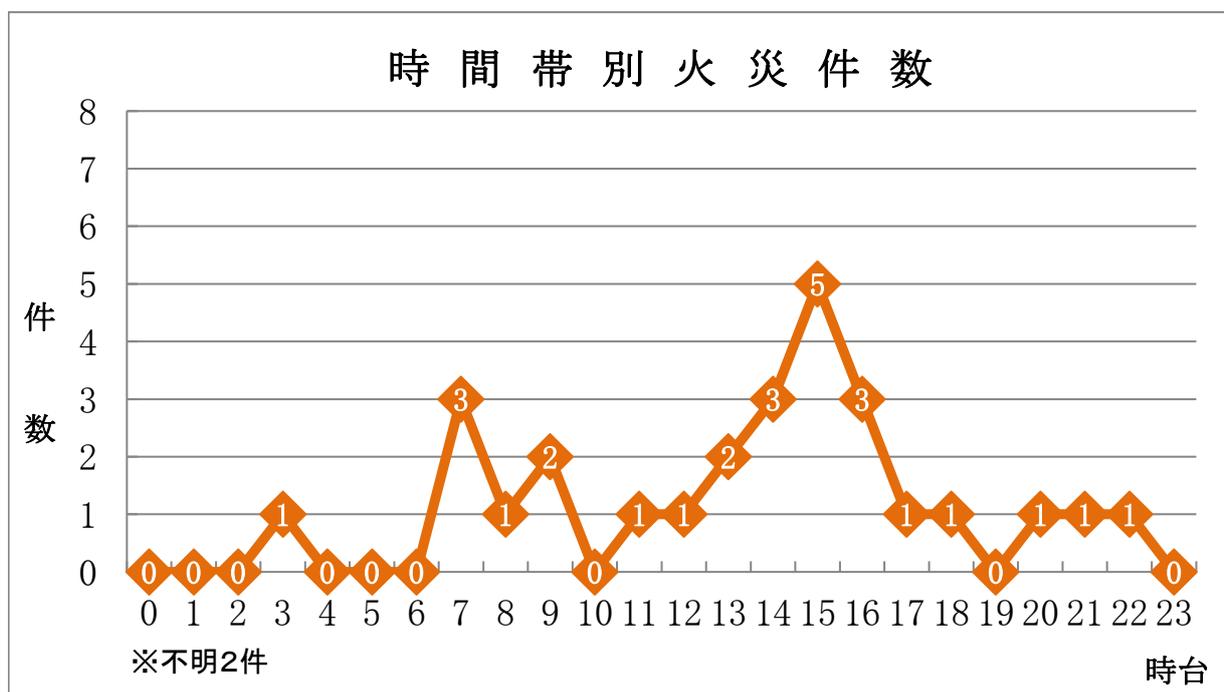
#### 4. 月別火災件数

火災件数を月別にみると、11月（6件）が最も多く、1月（0件）が少ない月となっています。



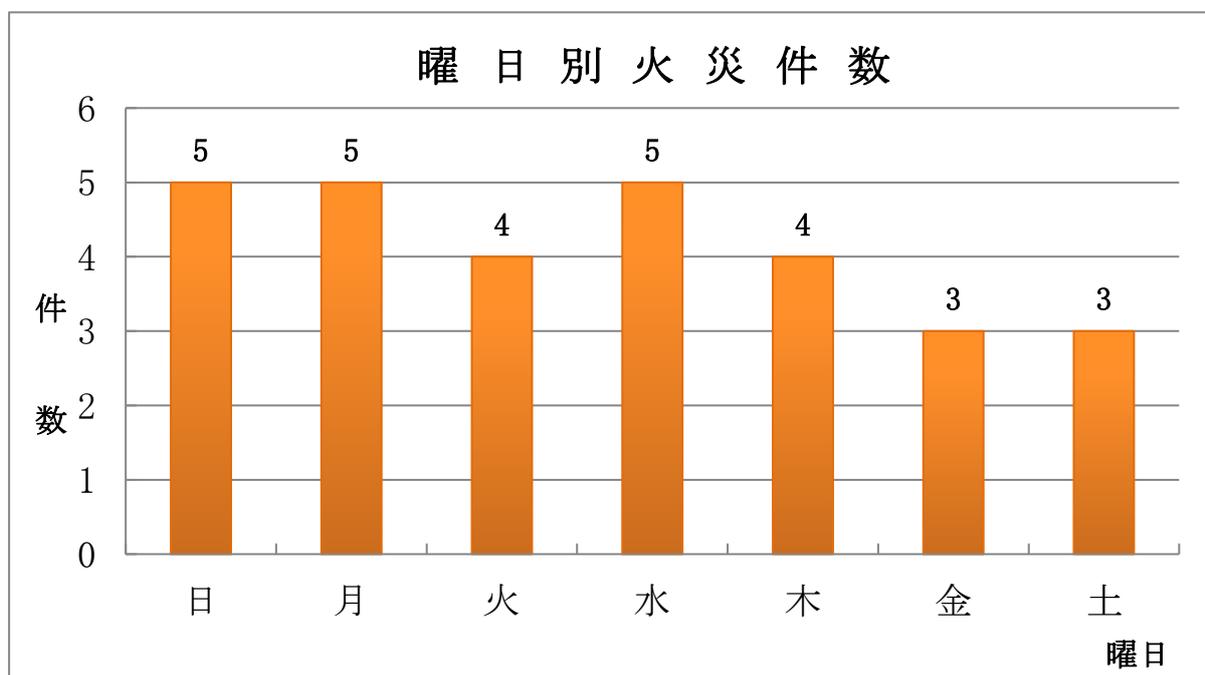
#### 5. 時間帯別火災件数

火災件数を時間帯別にみると、15時（5件）が最も多く、次いで7時、14時、16時（3件）となっています。



## 6. 曜日別火災件数

火災件数を曜日別にみると、日曜日、月曜日、水曜日（5件）が最も多く、次いで火曜日、木曜日（4件）となっています。



## 7. 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報（14件）が約5割と多くなっています。

覚知方法別	件 数	割 合
119(携帯電話から)	14	48.3%
119(固定電話から)	6	20.7%
加入電話	4	13.8%
事後聞知	3	10.4%
警察電話	1	3.4%
その他	1	3.4%
計	29	100%

## 8. 校区別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区： 9件
- ・川東地区： 9件
- ・上部地区： 11件

大島

0

惣開 3	宮西 3	新居浜 1	高津 3	浮島 3	垣生 0
	金子 1			神郷 2	
金栄 1				多喜浜 1	

大生院 0	中萩 5	泉川 3	船木 0
	角野 3		
	別子 0		

## 9. 月別原因別火災件数

29件の火災を出火原因別にみると、「火入れ」が4件と最も多く、次いで「配線器具」が3件となっています。

月別 原因別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	29	0	1	2	4	4	2	3	1	2	1	6	3
たばこ	2		1							1			
火入れ	4				1			1			1	1	
配線器具	3			1								2	
電気装置	1						1						
電気機器	2							1				1	
電灯・電話等の配線	1											1	
取灰	1								1				
放火の疑い	1												1
その他	4				1		1	1				1	
不明	10			1	2	4				1			2

## 10. 死傷者の発生状況

火災による死傷者は令和4年中は死者2人、負傷者6人でしたが、令和5年中は死者1人、負傷者6人となっており、比較すると負傷者の増減はなく、死者が1人減少しています。

また、令和5年中の死傷者の内訳は、逃げ遅れ(死者1人)、避難中(負傷者3人)、初期消火中(負傷者1人)、その他(負傷者2人)となっています。



## 11. 初期消火の状況

初期消火の状況を見ると、初期消火が実施されたのは15件で、そのうち9件が初期消火の効果がありました。

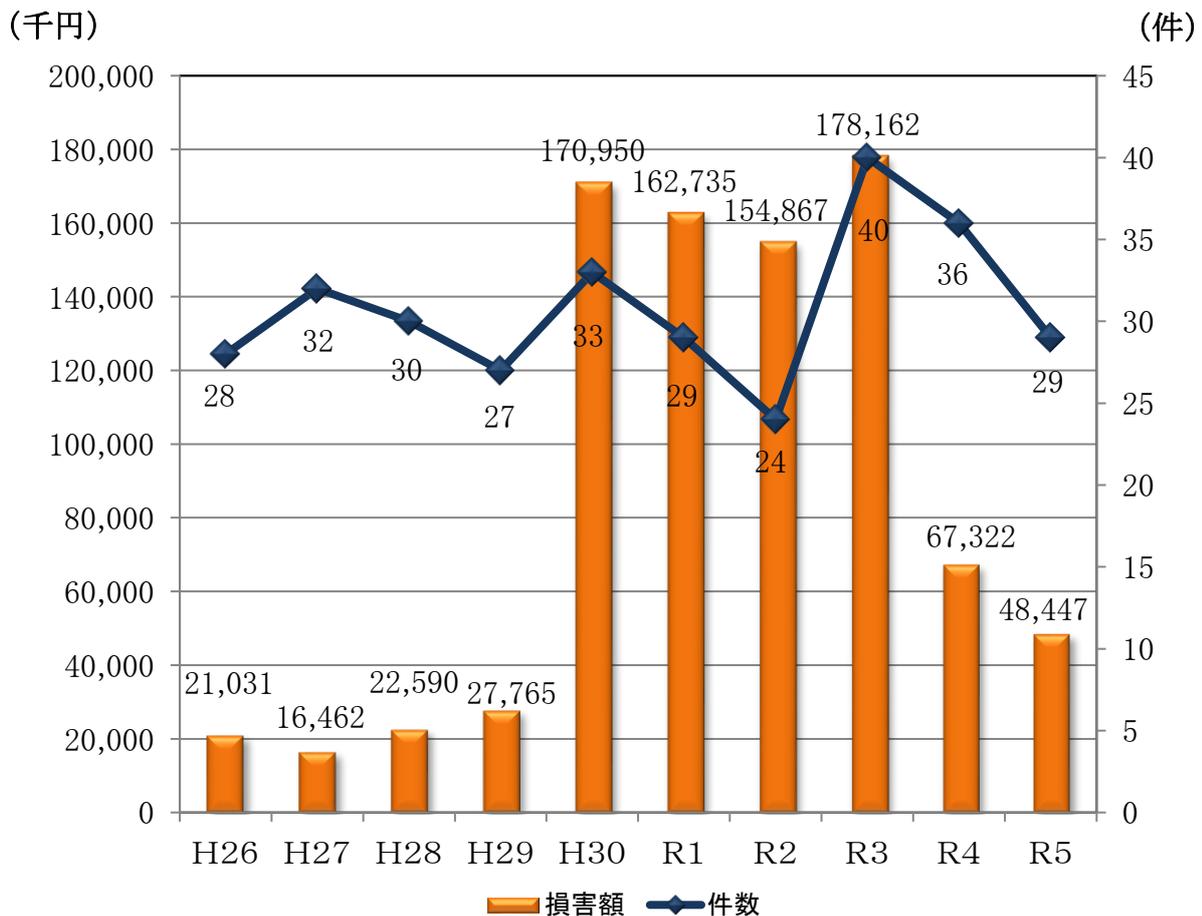
また、使用された初期消火器具等をみると、「水バケツ」が7件で最も多く、次いで「粉末消火器」が4件となっています。

火災件数	29件
初期消火実施(構成比)	15件(52%)
初期消火なし(構成比)	14件(48%)

初期消火方法	実施件数	有効件数(有効率)
水バケツ	7件	3件(42%)
粉末消火器	4件	3件(75%)
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	2件	1件(50%)
屋外消火栓設備	1件	1件(100%)
もみ消した	1件	1件(100%)
<b>合計</b>	<b>15件</b>	<b>9件(60%)</b>

## 12. 10年間の火災概況(平成26年～令和5年)

年別	区分	件数 (件)	損害額 (千円)	負傷者 (人)	死者 (人)	出火原因 (件数)
平成26年		28	21,031	2	5	放火の疑い(5件)
平成27年		32	16,462	5	0	火遊び(5件)
平成28年		30	22,590	8	1	ストーブ、こんろ、 内燃機関、電気機器 (各2件)
平成29年		27	27,765	6	2	電灯・電話等の配線、 たばこ(各4件)
平成30年		33	170,950	5	1	放火の疑い、配線器具 (各3件)
令和元年		29	162,735	3	3	放火、たばこ (各4件)
令和2年		24	154,867	3	1	電灯・電話等の配線、 たばこ、こんろ (各3件)
令和3年		40	178,162	5	1	こんろ、放火、 放火の疑い(各5件)
令和4年		36	67,322	6	2	火入れ(3件)
令和5年		29	48,447	6	1	火入れ(4件)



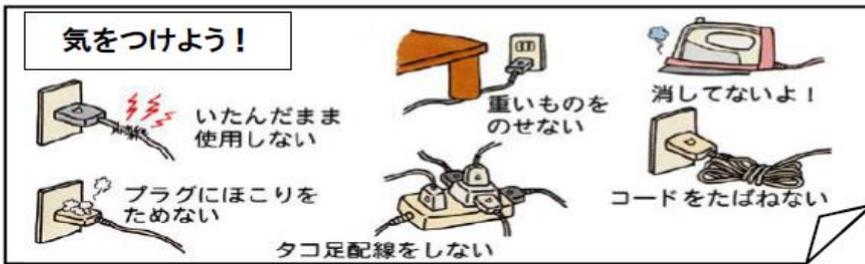
※平成30年から令和3年については、工場内で発生した火災により損害額が増加

### 13. 住宅用火災警報器の設置について

令和5年中の火災件数は29件、前年と比べて7件減少しています。火災の原因は、電気関係が多くなっています。普段から、使用している電気製品やコード、コンセント、差し込みプラグなどを点検しましょう。また、日頃使用していない器具は、差し込みプラグをコンセントから抜くよう心がけてください。

#### 火災原因別件数

原因	令和5年
たばこ	2
電気機器	2
電気装置	1
電灯・電話等の配線	1
配線器具	3
取灰	1
火入れ	4
その他	4
放火の疑い	1
不明・調査中	10
合計	29



### 住宅用火災警報器付けてますか？

#### 住宅用火災警報器設置状況

令和5年中に発生した住宅火災は12件で、そのうち住宅用火災警報器を設置している住宅は0件でした。命や家を守るために、住宅用火災警報器を設置し、維持管理しましょう！

	令和4年	令和5年
設置	3	0
未設置	7	12
不明	2	0
合計	12	12

#### 付けていてよかった！

##### 奏功事例①

1階の台所から出火

2階で就寝中の居住者が、階下の住宅用火災警報器が鳴っているのに気づく

119番通報し、避難



避難し人命が守られる！



階段の上で感知  
住警器が作動



近所の方が気付いて対処！



##### 奏功事例②

居住者が調理中に就寝

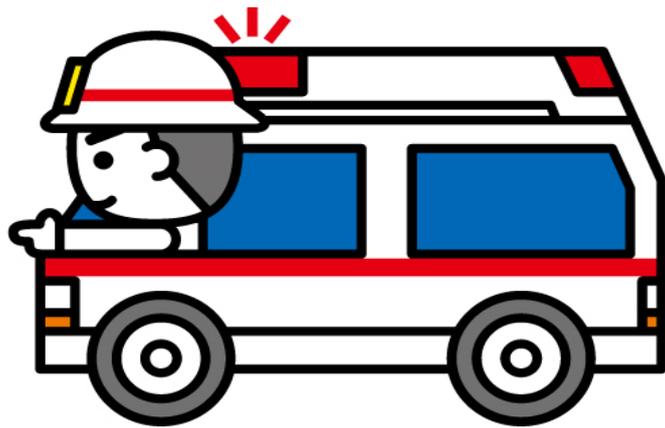
鍋から発煙し、台所と寝室の住宅用火災警報器が鳴動

隣人が警報音と臭いを確認し、119番通報

台所と寝室で感知  
住警器が作動



# 救 急



1. 救急活動状況
  - (1) 地区別救急出場件数の推移
  - (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況
  - (3) 事故種別救急出動状況（月別）
2. 応急手当普及啓発活動
3. 救急車適正利用のお願い
4. 救急支援情報サービス

## 1. 救急活動状況

### (1) 地区別救急出動件数の推移

令和5年における救急業務の実施状況は、出動件数が6,682件で1日の平均が約18件出動していることとなります。その内、医療機関等へ搬送された人員の数は6,240人でした。昨年と比べると出動件数は423件増加し、搬送人員も403人増加しました。出動件数については、過去最高件数であった令和4年の6,259件を上回り、令和3年以降、出動件数は増加の一途を辿っています。

### (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が4,071人(65.2%)、交通事故が409人(6.6%)、一般負傷が1,007人(16.1%)、その他が753人(12.1%)の割合となっています。依然、急病の占める割合が高くなっています。

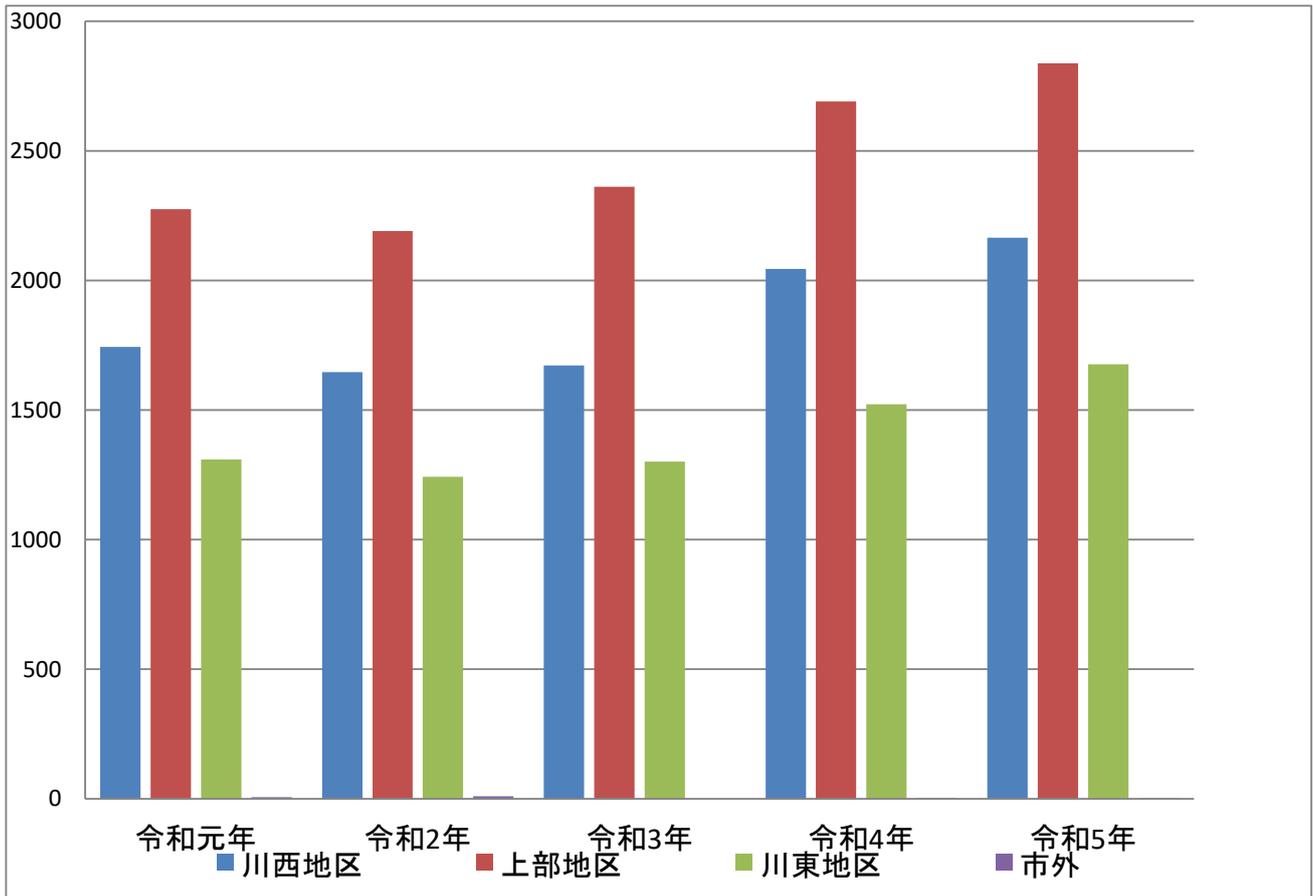
また年齢区分は新生児が25人(0.4%)、乳幼児が271人(4.4%)、少年が231人(3.7%)、成人が1,655人(26.5%)、高齢者が4,058人(65.0%)の割合となっており、高齢者の割合が半数以上を占めています。

### (3) 事故種別救急出動状況(月別)

令和5年中の救急出動件数は、6,682件でした。事故種別出動件数は、急病事案が最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順になっています。

月別の出動件数では1月の出動件数が最も多く、673件でした。最も少なかった4月の485件と比べると188件の差が生じています。

(1) 地区別救急出動件数の推移



地区	年				
	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
川西地区	1,743	1,646	1,685	2,044	2,165
上部地区	2,275	2,190	2,361	2,690	2,838
川東地区	1,309	1,243	1,288	1,522	1,677
市外	6	10		3	2
合計	5,333	5,089	5,334	6,259	6,682

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員

(令和5年)

事故種別	年齢区分					計
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
急病	1	202	124	980	2,764	4,071
交通		9	38	205	157	409
一般負傷		46	27	164	770	1,007
その他	24	14	42	306	367	753
合計	25	271	231	1,655	4,058	6,240

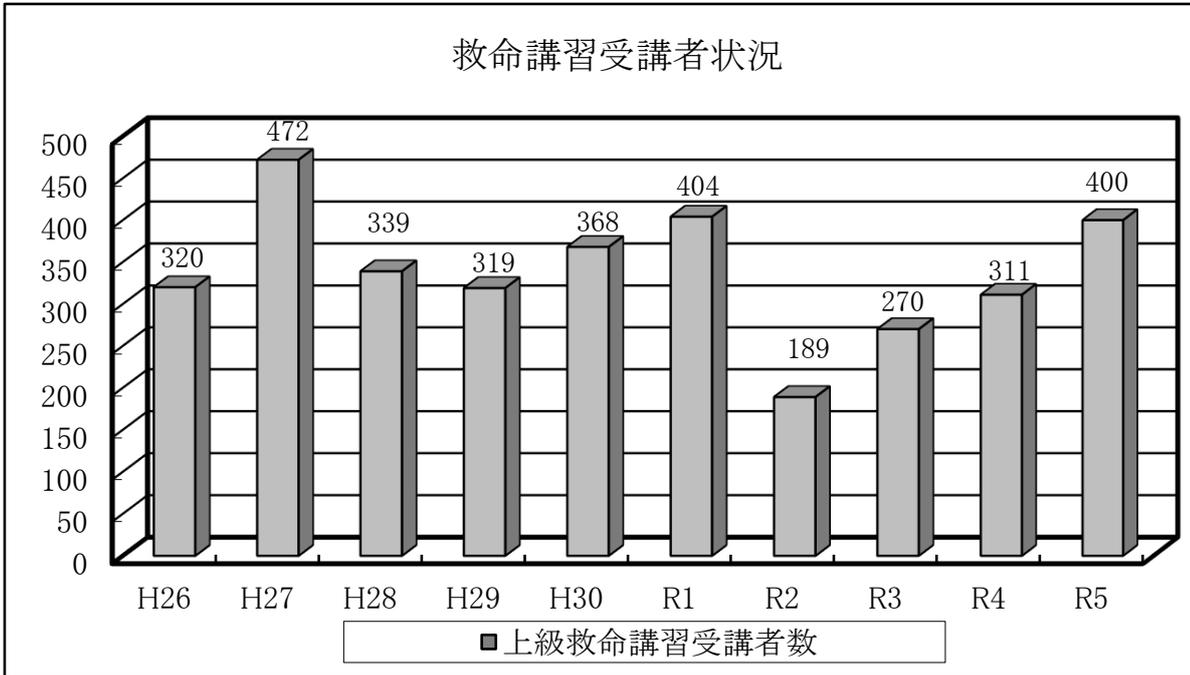
## (3) 事故種別救急活動状況(月別)

(令和5年)

		合計	月 別											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
出動件数		6,682	673	488	490	485	544	498	603	618	552	623	547	561
搬送人員		6,240	614	454	456	453	511	476	564	579	513	578	517	525
火災	出動件数	4			1	1							1	1
	搬送人員	5				1							1	3
自然災害	出動件数													
	搬送人員													
水難	出動件数	4			1						1		2	
	搬送人員	2			1						1			
交通事故	出動件数	416	35	38	40	31	37	22	39	33	39	35	28	39
	搬送人員	409	38	37	38	28	38	24	37	33	38	34	27	37
労働災害	出動件数	46	2	2	6	4	3	2	4	4	7	6	4	2
	搬送人員	44	2	2	6	4	1	2	4	4	7	6	4	2
運動競技	出動件数	27		2		4	2	4	2	3	3	3	1	3
	搬送人員	27		2		4	2	4	2	3	3	3	1	3
一般負傷	出動件数	1,057	97	86	78	70	98	75	84	91	77	114	92	95
	搬送人員	1,007	92	83	69	68	94	72	80	84	74	111	89	91
加害	出動件数	16	3		1	2	1	2	1	2		2	2	
	搬送人員	12	2		1	1	1	2		2		2	1	
自損行為	出動件数	56	4	6	4	2	5	5	5	4	9	4	6	2
	搬送人員	40	1	4	4	1	4	5	4	3	6	4	3	1
急病	出動件数	4,383	483	298	312	318	340	331	412	424	370	396	341	358
	搬送人員	4,071	433	274	292	298	316	314	386	398	342	361	325	332
その他	出動件数	673	49	56	47	53	58	57	56	57	46	63	70	61
	搬送人員	623	46	52	45	48	55	53	51	52	42	57	66	56

## 2. 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間、バイスタンダーによる応急手当が必要不可欠です。本市は市民を対象に救命講習会を開催しており、令和5年中に一般救命講習は67回で受講者数は3,456名、救命入門コースは24回で573名、普通救命講習は18回で400名受講されています。本年も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中での救命講習開催となりましたが、感染対策を徹底し実施することにより、コロナ禍前の状況に戻りつつあり、更なる応急手当の普及啓発を目指していきます。



## 3. 救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出場件数は増加傾向にあり、高齢化の進展などにより今後も増えていくことが見込まれています。救急車の出動件数が増えることで、救急車が現場に到着するまでに要する時間も伸びてきており、一刻を争う事態が発生したとき、救急隊の到着が遅れてしまうおそれがあります。えひめ救急電話相談（#7119）を使っていただくことで、緊急性が高いときには救急車の要請を、そうでないときは症状等に応じたタイミングで医療機関を受診することを支援します。こうすることで、緊急性の高い傷病者のもとにいち早く救急隊が駆けつけることができるようになります。

えひめ救急電話相談（#7119）は、地域の限られた医療資源の一つである救急車を有効に活用する一翼を担っています。救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していききたいと思います。（詳細は、下記のホームページをご参照ください。）

## 4. 救急支援情報サービス

### ①えひめ救急電話相談「#7119」について

<https://www.pref.ehime.jp/h15300/23syoubou/7119.html>

### ②愛媛県子どもの医療相談「#8000」について

<https://www.pref.ehime.jp/h20150/kyukyusyoni/syonikyukyuy.html>

### ③総務省消防庁「Q助」案内サイト

<https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/apropriate003.html>



# 救 助



1. 救助概況
2. 救助活動状況
3. 救助統計
4. 過去5年間の救助概況

## 1. 救助概況

令和5年中の救助出動件数は32件、活動件数は20件となっており、前年と比較すると、出動件数は5件の減少、活動件数は5件の減少となっています。また、救助人員は23人となっており、前年と比較すると13人減少となっています。

## 2. 救助活動状況

### (1) 事故種別出動件数・活動件数・救助人員（表－1）

救助出動件数は、32件であり、その内訳は、交通事故13件、機械による事故2件、建物等による事故4件、水難事故3件、その他の事故10件となっています。

活動件数は、20件となっており、交通事故5件、機械による事故1件、建物等による事故4件、水難事故2件、その他の事故8件となっています。

救助人員は、23人となっており、交通事故6人、機械による事故1件、建物等による事故4人、水難事故2人、その他の事故10人となっています。

### (2) 事故種別出動人員・活動人員（表－2）

総出動人員は、458人で、1件の事故に対する平均出動人員は14.3人（うち救助隊員4.8人）となっています。

総活動人員は、290人で、1件の事故に対する平均活動人員は14.5人（うち救助隊員5.3人）となっています。

### (3) 事故種別出動車両等台数（表－3）

出動車両は、救助工作車26台、消防ポンプ自動車29台、指揮車・指令車10台、救急自動車41台、その他23台で、総出動車両は129台であり、交通事故48台、機械による事故5台、建物等による事故9台、水難事故22台、その他の事故45台となっています。

### (4) 事故種別活動車両等台数（表－4）

活動車両は、救助工作車15台、消防ポンプ自動車19台、指揮車・指令車8台、救急自動車23台、その他16台で、総活動車両は81台であり、交通事故19台、機械による事故2台、建物等による事故8台、水難事故14台、その他の事故38台となっています。

### 3. 救助統計

(令和5年中)

表-1 事故種別出動件数・活動件数・救助人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
件数区分											
	出動件数		13	3		2	4			10	32
	活動件数		5	2		1	4			8	20
	救助人員		6	2		1	4			10	23

表-2 事故種別出動人員・活動人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
出動人員	兼任救助隊員		53	20		7	14			59	153
	消防隊員		65	39		6	8			59	177
	救急隊員		57	9		6	12			44	128
	合計		175	68		19	34			162	458
活動人員	兼任救助隊員		22	15		4	14			51	106
	消防隊員		28	24		1	8			52	113
	救急隊員		21	6		3	9			32	71
	合計		71	45		8	31			135	290

表-3 事故種別出動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
出動 車 等	救助工作車		13	3		2	4			4	26
	消防ポンプ自動車		10	3		1	1			14	29
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車		4	3						3	10
	救急自動車		19	3		2	4			13	41
	船舶										
	ヘリコプター										
	その他		2	10						11	23
合計		48	22			5	9			45	129

表-4 事故種別活動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	合計
活 動 車 等	救助工作車		5	2		1	4			3	15
	消防ポンプ自動車		4	2			1			12	19
	梯子車・屈折梯子車										
	化学車										
	指揮車・指令車		3	2						3	8
	救急自動車		7	2		1	3			10	23
	船舶										
	ヘリコプター										
合計		19	14			2	8			38	81

#### 4. 過去5年間の救助概況

区分		年別				
		令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
出動 件数	火災					
	交通	15	16	9	19	13
	水難	2	3		2	3
	その他	15	21	15	16	16
	合計	32	40	24	37	32
活動 件数	火災					
	交通	11	7	7	9	5
	水難	2	3		2	2
	その他	14	17	12	14	13
	合計	27	27	19	25	20
救助 人員	火災					
	交通	15	13	7	10	6
	水難	3	1		7	2
	その他	22	19	12	19	15
	合計	40	33	19	36	23

